

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 持続都市建築システム学国際コース（修士）

### 1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>持続都市建築システム学国際コース（修士プログラム）では、建築・都市の持続化にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通じて、その解決策を提案できる人材を育成するための教育と研究指導を行う。特に、都市や建築分野の専門分野（「専門力」）のみならず持続化に関連する様々な領域を把握できる「鳥瞰力」、国際的な場で活発にコミュニケーションを取りながら協働することができる「国際コミュニケーション力」、高い専門知識を基に各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる「実践力」の養成を教育の柱としている。本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地調査・分析から問題解決策立案までの過程を学ぶことを通じて、建築・都市の持続化を実現するための理論と技術を身に付けていること。</li> <li>・ 建築・都市の持続化にかかわる分野において、指導的役割をはたすこと。</li> <li>・ 中長期的な観点から適切な政策を立案し、合意形成を図っていく技能を活かし、建築・都市の持続化に向けた先導的役割をはたすこと。</li> </ul> <p>上記の目的を達成し、本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して、履修した科目および研究テーマに応じて、修士（人間環境学）または修士（工学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019年度～）」</li> <li>・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014年3月19日）</li> </ul>
学修目標	<p>A.（主体性・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市にかかわる専門知識にとどまらず、歴史、芸術、工学など自然科学や人文社会科学の知識も包括的に把握する意欲を持つ。</li> <li>・ 自ら進んで課題に取り組む積極性、国際的活動に対する実践的意欲を持つ。</li> </ul> <p>B.（知識・理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市の持続化に関わる幅広い知識を有し、他領域との関係</li> </ul>

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>性から自らの専門領域を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 持続的な建築・都市を計画・デザインするための専門的な理論と方法を身につける。</li><li>・ 建築・都市の持続性を把握する方法と持続化を実現する技術に関する知識を身につける。</li></ul> <p>C. (技能)</p> <p>C-1. (鳥瞰力)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 建築・都市・社会システムを俯瞰的に捉え、構成要素間の相互作用を考慮しながら持続型社会の課題を解決するバランス感覚、ならびに課題を創造的・批判的に吟味・検討する視点を持つ。</li><li>・ 建築・都市が抱える課題を自ら発見し、その問題点を明確化し整理できる。</li></ul> <p>C-2. (国際コミュニケーション力)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 持続可能な建築・都市の実現のための方法や技術を説明できる。</li><li>・ 周りとの協力を進めながら問題解決へ努力する協調性と同時にチームを統括する管理能力を備える。</li><li>・ 問題解決にあたり、蓄えた知識、他者との交流から、様々なアプローチの可能性を考える。</li></ul> <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「B. (知識・理解)」に加えて個々の知識を応用・総合し、かつ自らの創造性を発揮して、建築・都市の持続化を提言できる能力を身につける。</li><li>・ 持続可能な建築・都市に関する高い専門知識を基に、個別課題に対して解決方法を立案できる。またそれを実行する能力を身に付ける。</li><li>・ 高い学習意欲を維持するとともに、専門家としての社会との関わりを自覚し、高度な倫理感を持つ。</li></ul>
--	--

### 2. 新カリキュラム・ポリシー

建築・都市の持続化を実現するための理論と技術を体系的に学んだ上で、建築・都市の持続化にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通じて、その解決策を提案できる人材の育成を目指す持続都市建築システム学国際コース（修士プログラム）では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

#### 【コースワーク】

### 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

持続都市建築システム学国際コース（修士プログラム）では、都市や建築分野の専門分野のみならず持続化に関連する様々な領域を把握できる「鳥瞰力」、国際的な場で活発にコミュニケーションを取りながら協働することができる「国際コミュニケーション力」、高い専門知識を基に各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる「実践力」の養成を柱としている。

これらを実現する教育の中心は、必修科目である「Master Thesis Research」であり、研究を通して課題発見から解決策の提案までを実践する。本コースの特色は、日本を含む多様な国々の学生が協働して学ぶ仕組みを作っていることである。持続型の建築について複数の受講生で協力して構想する「Workshop of Sustainable Architecture and Urbanism」、持続型の都市・まちについて複数の受講生で協力して構想する「Sustainable Design Camp」「Architecture and Urban Design Studio」などの演習科目がこれに当たる。これらの科目は、様々な国籍の受講生が協力し合う環境を作ることで「国際コミュニケーション力」が醸成されることを狙うものである。また、「実践力」の養成では「International Practice」があり、実践的な課題解決の取り組みによって単位が修得できる。これらに加えて様々な視点から建築・都市の持続化を俯瞰する「鳥瞰力」を養う科目として10単位の国際コース科目と26単位のEJ科目があり、学生の興味関心に応える幅広い科目群を揃えている。上記ら全ての科目が英語により単位修得できる。

さらに、2017年より開始した「大学の世界展開力強化事業（キャンパス・アジア）」において、本学と同済大学（中国）、釜山大学（韓国）の3大学がコンソーシアムを形成しダブルディグリープログラムを構築している。

#### 【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導をめざしている。修士課程の学生については1名の主指導教員と1名の副指導教員で研究指導に当たる。この他、入学当初にはオリエンテーションを行い、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進に必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

#### 【学位論文審査体制】

学位論文の審査では、主指導教員・副指導教員を含む複数の教員によって、修士論文を審査し、修士論文発表会において公開質疑を行った上で可否を判定する。

#### 【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、比較的専門分野の近い教員によ

### 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

って構成される検討会等において、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

修士論文の内容、各授業の成績評価、および各授業の最後に行われる受講生へのアンケート調査に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。ダブルディグリープログラムではアクレディテーション委員会を立ち上げ外部評価を受けるとともに、国際建築教育認証システムの開発に取り組む。

#### 3. 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生 像</p>	<p>(全学共通) 国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>(部局固有) 持続都市建築システム学国際コース(修士プログラム)では、以下のような資質を備えた学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる基礎的な専門知識や技能</li> <li>② 都市や建築分野の専門分野のみならず様々な領域を俯瞰し、持続化に関連する課題とその解決策を発見しようとする探究心</li> <li>③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出そうとする意欲</li> <li>④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力</li> <li>⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲</li> </ol>
<p>入学者選抜 方法との関係</p>	<p>入学者選抜では、卒業論文またはその梗概によって①に掲げられた基礎的な専門知識や技能、修士課程における研究計画によって②～④の資質を評価する。受験者をよく知る教員等からの推薦書によって⑤に掲げる前向きな姿勢とそれを継続する意欲を評価する。また、TOEFLスコアによって④の語学力を評価する。さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答によって①～⑤の資質について重ねて評価する。選考では、①～⑤の全ての能力を一定水準以上で備えていることを評価する。</p>

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 持続都市建築システム学国際コース（博士）

### 1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>持続都市建築システム学国際コース（博士プログラム）では、地域の歴史・伝統・文化を理解・分析すると共に、建築・都市の持続化にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通じて、その解決策を提案し、実現にむけてリーダーシップを発揮できる人材を育成するための教育と研究指導を行う。特に、都市や建築分野の専門分野（「専門力」）のみならず持続化に関連する様々な領域を把握できる「鳥瞰力」、国際的な場で活発にコミュニケーションを取りながら協働することができる「国際コミュニケーション力」、高い専門知識を基に各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる「実践力」の養成を教育の柱としている。</p> <p>本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市の持続化に関する専門性と総合性を高度に兼備している。</li> <li>・ 日本の優れた技術を海外において適地活用できる人材として、指導的役割をはたすことができる。</li> </ul> <p>上記の目的を達成し、本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して、履修した科目および研究テーマに応じて、博士（人間環境学）または博士（工学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019年度～）」</li> <li>・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014年3月19日）</li> </ul>
学修目標	<p>A. （主体性・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市にかかわる専門知識にとどまらず、歴史、芸術、工学など自然科学や人文社会科学の知識も包括的に把握する意欲を持つ。</li> <li>・ 自ら進んで課題に取り組む積極性、国際的活動に対する実践的意欲を持つ。</li> </ul> <p>B. （知識・理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市の持続化に関わる高度な専門知識・理論・技術を習得し、それらを用いて自身の研究について詳しく解説できる。</li> <li>・ 持続的な建築・都市を計画・デザインするための専門的な理論と方法を身につける。</li> </ul>

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 建築・都市の持続性を把握する方法と持続化を実現する技術に関する多面的な知識を身につける。</li></ul> <p>C. (技能)</p> <p>C-1. (鳥瞰力)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 建築・都市・社会システムを俯瞰的に捉え、構成要素間の相互作用を考慮しながら持続型社会の課題を解決するバランス感覚、ならびに課題を創造的・批判的に吟味・検討する視点を持つ。</li><li>・ 建築・都市が抱える課題を自ら発見し、その問題点を明確化し整理した上で、自身が身に付けた高度な専門的能力に基づいて解決に向けた研究を立案できる。</li></ul> <p>C-2. (国際コミュニケーション力)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 持続可能な建築・都市の実現のための方法や技術を説明できる。</li><li>・ 問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、指導的立場から実行する能力、チームを運営する能力、後進を育成する能力を身に付ける。</li><li>・ 問題解決にあたり、蓄えた知識、他者との交流から、様々なアプローチの可能性を考える。</li></ul> <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「B. (知識・理解)」に加えて個々の知識を応用・総合し、かつ自らの創造性を発揮して、建築・都市の持続化を提言できる能力を身につける。</li><li>・ 持続可能な建築・都市に関する高い専門知識を基に、客観的分析と論理的思考を通じてその問題点を明確化し、海外の各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる。</li><li>・ 問題を論理的・分析的に解決するとともに、それによって新たな知見を導くことができる。</li><li>・ 高い学習意欲を維持するとともに、専門家としての社会との関わりを自覚し、高度な倫理感を持つ。</li><li>・ 身につけた建築学に関する高度な専門的能力を自身の研究に応用・展開し、自立した研究者として国内外における専門分野の発展に貢献できる。</li></ul>
--	---

### 2. 新カリキュラム・ポリシー

持続都市建築システム学国際コース（博士プログラム）では、建築・都市の持続化を実現するための理論と技術を体系的に学んだ上で、建築・都市の持続化にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通じて、その解決策を提案できる人材

### 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

の育成を目指しており、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

#### 【コースワーク】

本コースでは、都市や建築分野の専門分野のみならず持続化に関連する様々な領域を把握できる「鳥瞰力」、国際的な場で活発にコミュニケーションを取りながら協働することができる「国際コミュニケーション力」、高い専門知識を基に各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる「実践力」の養成を柱としている。これらを実現する教育の中心は、必修科目である「Doctoral Thesis Research」であり、研究を通して課題発見から解決策の提案までを実践する。その他全ての科目において英語により単位修得できる。

#### 【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導をめざしている。博士後期課程の学生については1名の主指導教員と2名の副指導教員で研究指導に当たる。この他、入学当初にはオリエンテーションを行い、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進に必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

#### 【学位論文審査体制】

論文を提出された主指導教員は論文調査会(仮)を招集し、論文の実質的予備調査を行い、予備調査会の開催の歌碑について審議する。専攻の講師以上の教員で構成される予備調査会は、主指導教員から提出された博士論文の内容の説明を受け、当該論文が所定の水準にあるかどうかを審議する。その後、論文が提出された学府長は、学府教授会において論文の受理と論文調査会の設置について審議を行う。ここで、論文調査会は主査1人を含む3人以上の論文調査委員を持って構成する。このとき、主査及び1人以上の論文調査委員を学生の所属する専攻の教員のうちから選出し、他の論文調査委員のうち1人以上を他の専攻の指導教員または他の学府、他大学等の教員のうちから選定する。論文調査会は公平性と質の確保のため、学内外から博士論文の内容に造詣が深い方々を招いた一般公開の論文公聴会を開催し、論文提出者は、博士論文について発表し、出席者との質疑応答を行う。論文審査会は専攻の教授ならびに主査、副査で構成され、論文調査会から提出された調査報告書に基づいて可否を決定する。論文審査会がまとめた審査報告書を受けた学府長は、学府教授会において、論文審査会の審査報告書に基づいて学位授与の可否を審議し、決定する。

#### 【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

### 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は以下の方針(アセスメント・プラン)に基づいて評価し、その評価に基づいて比較的専門に近い教員によって構成される検討会等において、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

博士論文の内容、各授業の成績評価に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。

#### 3. 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生像</p>	<p>(全学共通) 国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>(部局固有) 持続都市建築システム学国際コース(博士プログラム)では、以下のような資質を備えた学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる専門知識や技能</li> <li>② 都市や建築分野の専門分野のみならず様々な領域を俯瞰し、持続化に関連する課題を発見しようとする探究心とその課題の背景を深く洞察する能力</li> <li>③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出す能力</li> <li>④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力</li> <li>⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲</li> </ol>
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>入学者選抜では、修士論文またはその梗概によって①に掲げられた基礎的な専門知識や技能、博士後期課程における研究計画によって②～④の資質を評価する。受験者をよく知る教員等からの推薦書によって⑤に掲げる前向きな姿勢とそれを継続する意欲を評価する。また、TOEFL スコアによって④の語学力を評価する。さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答によって①～⑤の資質について重ねて評価する。選考では、①～⑤の全て</p>

### 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	の能力を一定水準以上で備えていることを評価する。
--	--------------------------